

中干しを徹底して根の活力を増強！
生育進んで出穂やや早い見込み。穂肥は遅れず適量を！

●表1 生育状況（6月24日現在）

品種	場所	年次	移植	6/19土壤中残存アンモニア態窒素 (mg/100g)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
はえぬき 移植	鶴岡市 矢馳	本年	5月17日	4.0	39.0	592	9.5	42.0
		平年	5月16日	5.5	38.5	550	8.8	40.0
		平年比・差	+1	-1.5	101	108	0.7	2.0
つや姫 移植	鶴岡市 上清水	本年	5月11日	1.3	42.7	691	9.2	38.4
		平年	5月12日	4.0	42.4	496	8.8	41.3
		平年比・差	-1	-2.7	101	139	0.4	-2.9
雪若丸 移植	鶴岡市 長沼	本年	5月8日	3.1	31.3	615	9.5	43.3
		平年	5月12日	4.5	37.4	632	9.1	45.8
		平年比・差	-4	-1.4	84	97	0.4	-2.5

※平年：2021～2025年の5か年平均

●表2 「やまがた米づくりナビ」適期作業カレンダーによる出穂期等の予測

移植時期	穂肥適期(月/日)			予測出穂期(月/日)			※6/25時点の予測 モデルは庄内平坦(鶴岡市藤島) 移植時苗の葉数は2.7葉
	はえぬき	雪若丸	つや姫	はえぬき	雪若丸	つや姫	
5月5日	7/5	7/6	7/5～10	7/30	7/31	8/4	
5月10日	7/7	7/8	7/7～12	8/1	8/2	8/6	
5月15日	7/8	7/10	7/9～14	8/2	8/4	8/8	
5月20日	7/11	7/13	7/11～16	8/5	8/7	8/10	

●品種ごとの穂肥診断の方法

1. はえぬき

- 出穂25日前（今年は7/5～10頃）、窒素成分1.5～2.0kg/10aを基本とする。
- 10.4葉期（今年は7/3～5頃）に診断を行い、穂肥の量と時期を決定（図1）。
- 茎数700本/m²以上、又は葉色（SPAD値）40以上のいずれかの場合、穂肥量を窒素成分1.0kg/10aに減らし、両方に該当している場合は、穂肥を行わない。

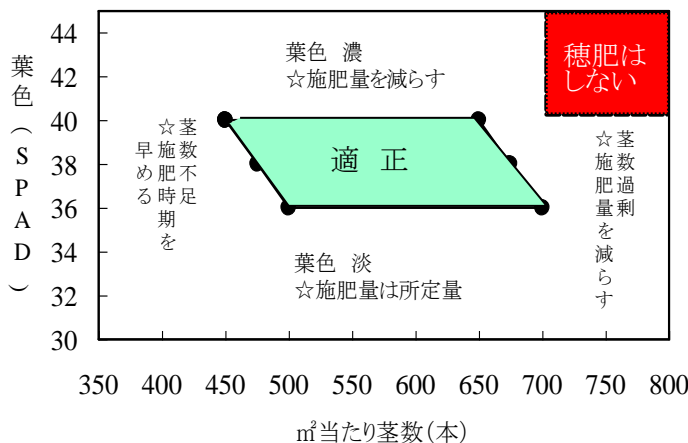


図1 はえぬきの7/3～5頃の茎数・葉色による診断と穂肥対応(本年の出穂期を想定)

表3 茎数・葉色早見表

m ² 当たり 茎数(本)	株当たり茎数(本)	
	60株植/坪	70株植/坪
700本/m ²	38	33
450本/m ²	25	21

葉色(SPAD)	葉色(葉色板)
40.0	5.0
36.0	4.6

2. つや姫

- 穂肥は出穂 30 日前（今年 7/5～10 頃）が基本。
- 7/5 頃に生育診断を行い、生育に合わせて穂肥を実施！（図 2）。

- ① 茎数 600 本/㎡以下かつ葉色 39 以下
⇒出穂 30 日前に窒素成分 1.5kg/10a を施用
- ② 茎数 600～650 本/㎡、又は、葉色 39～41
⇒窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
- ③ 茎数 650 本/㎡以上、又は、葉色 41 以上
⇒出穂前 25 日頃まで葉色が低下したら、
窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
※葉色が低下しない場合は、穂肥を行わない

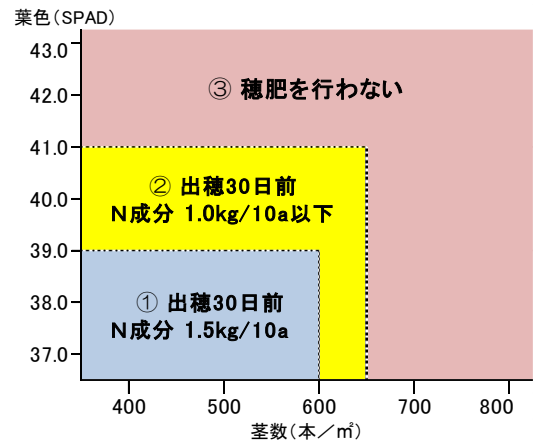


図2 つや姫の 7/5～10 の茎数・葉色による診断と穂肥対応（本年の出穂期を想定）

3. 雪若丸

- 6 月 30 日頃の生育量に基づき、穂肥の時期・量を調整する（表 4 参照）。
- 生育が適正範囲の場合は、出穂 25 日前に窒素成分 1.5kg/10aを施用する。

表 4 生育量別の穂肥の目安

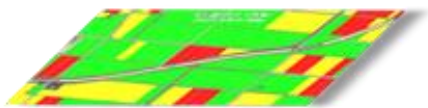
生育量	茎数		葉色 (SPAD)	施用時期と窒素成分量
	坪 70 株	坪 60 株		
生育不足	26 本/株未満	31 本/株未満	40 未満	出穂 30 日前、1.5kg/10a
適正	26～35 本/株	31～41 本/株	40～44	出穂 25 日前、1.5kg/10a
生育過剰	35 本/株以上	41 本/株以上	44 以上	出穂 25 日前、1.0kg/10a

※地力の低い圃場では窒素成分 2.0kg/10a を上限として、早目に追肥する。

※穂肥前に補完追肥を行った場合は、補完追肥した量を、穂肥の量から減肥する。

※基肥、補完追肥、穂肥の合計量は、窒素成分 8kg/10a 以内とする。

やまがた米づくりナビ



『穂肥診断マップ』

6 月 30 日更新予定!

「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」に対応!

- 『穂肥診断マップ』を活用して効率的・効果的に診断！
- 『適期作業カレンダー』で出穂予測を確認しよう！



詳しくは最寄りの JA または農業技術普及課へ

熱中症と農作業事故に気をつけましょう
定期的に水分と休憩を取りましょう!!

